

第3回長野市地域包括支援センター運営協議会
地域包括支援センターの活動報告

地域包括支援センター名 吉田

<p>地域の特色 (区域内の人口や市街地、山間地等)</p>	<p>【担当地区】 吉田地区</p> <p>【人口 R7.4.1 現在】 16,363 人うち65歳以上人口4,829人(高齢化率 29.5%)</p> <p>【地区の特色】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・しなの鉄道(兼 JR 線)と長野電鉄の二つの鉄道路線を有する地区である。善光寺から続く北国街道があり、古くから交通の要所で商業も発展していた。かつては田畑も広くあったが、昭和後期からほとんどが住宅街となり現在は駅周辺を中心にマンションの建設が増加している。マンションには高齢者も多く住んでいる。 ・住宅地では高齢化が進み、高齢独居世帯や高齢者のみの世帯が多い一方、新しい住宅の建設により、若い世帯への入れ替わりもみられる。 ・地区内には大型スーパーが複数あり、個人商店も減少傾向であるが営業している。個人医院が点在している。介護事業所数は豊富にある。
<p>R6年度の活動報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合相談件数 ・相談の困難ケース ・相談から見えてきた地域の特徴 ・最近多い相談内容、傾向 ・相談があった消費者被害と対応 	<p>【総合相談】 R6 2,264 件(延べ数)</p> <p>【困難ケース】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者虐待のケース。認知症になった父親に同居の息子が厳しく当たる。 ・精神疾患があると思われる本人が「不安なので話を聞いてほしい」と絶え間なく、包括含め相談機関に頻繁に電話をかける。保健センターとも協力しているが、服薬拒否し治療に繋がらない。夫は病気の理解が不十分で、介護の負担や怒りで手を挙げる。 ・精神疾患があると思われる娘による身体的虐待、放棄・放任。娘の体調によるが、口論になると、食事を与えられないなど。娘は金銭管理ができず、ライフラインが止まるが、介入を拒む。 ・軽度認知症だが、高齢者本人が支援に対して過敏に反応し拒否され、介入できないケース。 ・認知症でサービス拒否する夫婦に娘がいるが、娘は身を明かすことを嫌い、本人達の同意を取り付けるように地域包括支援センターやケアマネジャーに要望する。 ・介護サービス利用に必要な契約やアセスメント訪問など一連の手続きについて、長男が面倒だと嫌って行わず、「特例でお願い」と訴えを行う。 ・セルフネグレクトでゴミ屋敷にいて介入拒否。病院、タクシー会社、近所から相談が多かったが、転倒後動けなくなってもスムーズに介入できなかった。 ・アルコール依存症で適切な支援に繋がらないケース。 <p>【相談から見える地域の特色】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症や精神疾患の理解不足による虐待等の問題が多い。 ・高齢者世帯、高齢単独世帯が多い。

	<ul style="list-style-type: none"> ・親族との関係性が薄い人が散見される。財力・生活力があるため、若いときは人に頼らず生きてきたからか。 ・家族が近くにいてもこれまでの関係がこじれていて不仲であるケースも多い。 <p>※「おひとりさまサポート」や生活保護につなげたいときに、却って対象外となってしまうことがある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・半世紀ほど前に開発された住宅地で隣近所が近い。近所は同じ世代で支え合いもみられる。 ・元転勤族、公務員などが多い。マンションには高齢者も多い。 ・民生委員や福祉委員など、責任感があり地域に貢献しようと熱心に取り組まれている方が多い。 <p>【相談内容、傾向】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症で支援が必要であるが受診拒否・サービス拒否があり、家族が困っているという相談が多い。 ・高齢者虐待の相談が増えた。 ・夫婦間のDVか高齢者虐待か判断しにくいケースもある。 ・遠方に住んでいる親族からの相談も多い。包括支援センターになんでもやってもらいたいと考えているような親族もいる。 <p>【相談があった消費者被害と対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高額な屋根の工事代金の請求について、消費者センターにつなぎ追加支払いを止めることができた。
<p>地域ケア会議について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R6年度のケア会議の回数と議題 ・ケア会議の出席者 ・会議の中でどのような意見が出たのか 	<p>【地域ケア会議】</p> <p>■ネットワーク会議2回</p> <p>①議題:「誰もが地域の誰かにつながるために」 ～できることを一緒に考えよう～</p> <p>出席者:区長、福社会長、福祉推進員、民生委員、評議委員、介護サービス事業所、介護入所施設、調剤薬局、包括。</p> <p>会議での意見:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の活動紹介(おしゃべりサロンとデイサービスの連携例、集う場の提案として「ちょこっとカフェ」の紹介、地域で活躍するボランティアの紹介) ・参加者が役職や仕事、個人的にでも、地域とつながる活動をしていることを発表し共有。 ・「地域つながる」今後やってみたいことやできそうなことを話し合った。 ・地域ごとのテーマを決めた。 ・感想としては「様々な立場でどのような活動をしているかを知ることができた」、「相互の協力関係のきっかけにしたい」等があった。 <p>②議題:「誰もが地域の誰かにつながるために」パート2 ～できることを一緒にやってみよう～</p> <p>出席者:区長、福社会長、福祉推進員、民生委員、評議委員、介護サービス事業所、介護入所施設、調剤薬局、包括。</p>

	<p>会議での意見：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の活動紹介(前回のネットワーク会議後から始まった3事例の紹介。福祉用具事業所と地域の交流例、デイサービスのボランティア受け入れについて、おしゃべりサロンでの歴史講座) ・「地域の誰かとつながるためにやってみたいこと」の企画シートづくりを地域ごとに行った。 ・感想としては、「地域の人々の運動不足解消と交流の場を作りたい」「人と人のつながりで防災防犯教室をしたい」「救急法習得の場を作りたい」等の具体的な意見もあった。 <p>■他 個別ケースのケア会議6回、地域づくり打ち合わせ会議4回開催。</p>
<p>R6 年度地域包括支援センターの広報について</p> <p>・どのような取り組みをしているか</p> <p>実際の広報用紙またはチラシがあれば添付してください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉推進員の学習会での説明 ・民生児童委員定例会の参加、情報提供 ・運営推進会議への参加、情報提供 ・かがやきひろばのカフェで包括支援センターの紹介 ・福祉委員会への参加 ・介護者教室、認知症サポーター養成講座の開催

第3回長野市地域包括支援センター運営協議会
地域包括支援センターの活動報告

地域包括支援センター名 富竹の里

<p>地域の特色 (区域内の人口や市街地、山間地等)</p>	<p>【担当地区】 古里地区、柳原地区、長沼地区</p> <p>【人口 R7.4.1 現在】 古里地区:13,047 人うち 65 歳以上人口 4,068 人 (高齢化率 31.2%) 柳原地区: 6,543 人うち 65 歳以上人口 2,073 人 (高齢化率 31.7%) 長沼地区: 1,912 人うち 65 歳以上人口 800 人 (高齢化率 41.8%)</p> <p>【地区の特色】 古里地区:西部は住宅地、東部は農地が広がる地域。住民も多く高齢者も多い。 柳原地区:国道 18 号線 406 号線の分岐点や長野電鉄柳原駅があり交通の要となっている。地区により活動に対する意識が異なる。 長沼地区:千曲川と浅川に挟まれた田畑が多い地域。甚大な浸水被害の復興半ば、住民の助け合いの精神が共存している。</p>
<p>R6年度の活動報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合相談件数 ・相談の困難ケース ・相談から見えてきた地域の特徴 ・最近多い相談内容、傾向 ・相談があった消費者被害と対応 	<p>【総合相談】 R6 542 件 ※実数</p> <p>【困難ケース】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済的困窮者、身寄りがない独居高齢者、障害のある子が親の介護に携わり複合的な支援を要している状況である。 ・集合住宅住まいの単独世帯における孤立(セルフネグレクト)や、地域から孤立している親子世帯、認知機能低下による徘徊がある。 ・最近の傾向として、子どもの相談に高齢者が関わっているためスクールカウンセラーとの協働や子ども家庭福祉課との連携が必要となっている。 <p>古里地区:高齢者虐待ケース 11 件 柳原地区:高齢者虐待ケース 3 件 長沼地区:高齢者虐待ケース 2 件</p> <p>【相談から見える地域の特色】</p> <p>古里地区:8050 問題が 9060 になり、引きこもりの子が介護者として同居、地域の中で孤立している。また、子が遠方に住んでいたりと、身寄りのない独居世帯が多い。複合的問題を抱える相談内容が多い。</p> <p>柳原地区:独居や高齢者のみの世帯が多いが、民生委員をはじめとする住民からの相談によって、早めに対処することが可能である。日本語での意思疎通が困難な高齢者への支援ニーズが増加しており、特に中国語のみでの対応が求められるケースがみられる。</p> <p>長沼地区:近所や家族間での協力体制があり、独居高齢者においても支援を受けやすい環境となっている。相談を受けた時点で、すでに要介護状態となっており、自宅での生活を継続することが難しく、入居施設へつながる傾向がある。</p>

	<p>【相談内容、傾向】</p> <p>・遠方在住の親族や、別居している親族からの相談が増加している。</p> <p>古里地区:引きこもりの子が介護者というケースが多い。孤立しており、地域と隔たりがあり対応が困難となっている。</p> <p>柳原地区:5年後10年後を見据えた早期の相談が多い。県営住宅や市営住宅の独居高齢者からの相談が多い。</p> <p>長沼地区:独居高齢者からの相談を受けた時点で、要介護状態であるため居宅介護支援事業所のケアマネジャーへつなぐ事例が多い。</p> <p>【相談があった消費者被害と対応】</p> <p>・作業着姿の男性二人組が、訪問してくる。一人は了承を得ず屋根へ上がり、もう一人は自宅内へ入ってしまう。サービス担当者会議の日だったため、次女が自宅を訪れ、二人に声をかけると、そそくさと退散していったという事例があった。契約書等のやりとりはなかった。包括、民生委員、警察へ情報共有した。</p>
<p>地域ケア会議について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R6年度のケア会議の回数と議題 ・ケア会議の出席者 ・会議の中でどのような意見が出たのか 	<p>【個別ケア会議】</p> <p>■個別ケア会議 2 件</p> <p>①近隣住民にお金を借り、民生委員や近隣住民が対応に苦慮していた。無心があっても断ることを関係者間で周知し、支払い状況を明らかにするため社協まいさぼの協力を得る。</p> <p>②成年後見人を受けており、金銭管理への不満や妄想がある。市と後見人が、本人と面談し金銭状況の説明や今後の意向確認をし、ケアマネジャーと包括がサービス調整をした。本人からの訴えに関しては一旦ケアマネジャーと包括、ヘルパーとの相談協議</p> <p>■自立支援型個別ケア会議 1 件</p> <p>①療育手帳所持者の利用者について、サービスを増やす必要があるがこだわりが強く、他者の介入に抵抗がある。現在の生活が継続ができるようサポート体制を検討した。</p> <p>■ネットワーク会議</p> <p>古里地区: R6開催回数 1 回</p> <p>議題:キャラバンメイト立ち上げについて</p> <p>出席者:支所、住民自治協議会、社会福祉協議会、区長、民生児童委員、包括</p> <p>会議での意見:認知症カフェ「宙」を令和7年1月に開設した。認知症対応に関する理解を深めることを目的とし、キャラバンメイトを立ち上げ、地区での認知症サポート養成講座などで活躍している。</p> <p>柳原地区:R6開催回数 3 回</p> <p>議題:オレンジカフェ再開に向けた検討会</p> <p>出席者:支所、住民自治協議会、社会福祉協議会、民生児童委員、福祉事業所、包括</p> <p>会議での意見:感染症蔓延防止のためオレンジカフェ開催場所施設での再開のめ</p>

	<p>どが立っていなかった。地区住民より、新たな活動の場を作りたいという要望があり、オレンジカフェの再開に向けて検討する。令和7年5月より年6回の開催で試験的にオレンジカフェを支所内で再開した。</p> <p>長沼地区:R6開催回数 5 回</p> <p>議題:地域たすけあい事業再編</p> <p>出席者:支所、住民自治協議会、社会福祉協議会、区長、民生児童委員、包括会議での意見:住民(中学生以上)対象のアンケート作成から実施と結果考察し、新たな資源開発から、住民同士の助け合いが中心にある。雪かきやゴミ出し、買い物、スマホ教室など、現時点では対応可能となっている事でも今後支援の必要性が出てくる内容が明らかになったことを住民へ報告し共有されている。</p>
<p>R6 年度地域包括支援センターの広報について</p> <p>・どのような取り組みをしているか</p> <p>実際の広報用紙またはチラシがあれば添付してください。</p>	<p>【三地区全体として】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民生児童委員会協議会定例会への参加 ・地域密着型 運営推進会議への参加 ・各地区での介護者教室、認知症サポーター講座の開催、地域包括支援センター富竹の里のチラシを支所、銀行、郵便局、薬局等へ設置依頼した。ポスターも掲示してもらい、法人のホームページの紹介や活動報告を掲載している。 <p>古里地区</p> <p>「宙カフェ」や、ふれあい会食などの地区公民館で行う活動へ参加し包括支援センター富竹の里のチラシを配布、福祉大会への協力と講座を開催</p> <p>柳原地区</p> <p>柳原小学校で毎年認知症サポーター講座を開催すると同時に包括支援センターの紹介を行う</p> <p>長沼地区</p> <p>農民館の体操教室や「えんがわ」へ参加し包括支援センターの紹介、相談受付や感染症の注意喚起や消費者被害情報を伝える</p>

第3回長野市地域包括支援センター運営協議会
地域包括支援センターの活動報告

地域包括支援センター名 篠ノ井総合病院

<p>地域の特色 (区域内の人口や市街地、山間地等)</p>	<p>【担当地区】 篠ノ井地区(中央・信里) 【人口 R7.4.1 現在】 18,153 人うち 65 歳以上人口 4,952 人 (高齢化率27.3%) 【地区の特色】 市街地と山間部があり、地域特性が大きく異なる。 中央地区:篠ノ井駅東側は、商店街やスーパー、コンビニ、篠ノ井支所、銀行など日常生活を送るうえで必要な資源が多くある。また総合病院やクリニック、薬局もあり、比較的、通院をするにも便利な地域である。しかし、篠ノ井駅西側は、スーパーとドラッグストア、コンビニがそれぞれ1店舗あるのみで、自家用車の移動手段がなければ不便な地域になっている。 信里地区:1つ1つの集落が離れており限界集落もある。山間部であり、宅配弁当を届けてくれる業者がなく、資源も限られている。介護サービスを提供している事業所も限られているため、介護度が重くなってくると1人暮らしの継続が厳しくなっている。</p>
<p>R6年度の活動報告 ・総合相談件数 ・相談の困難ケース ・相談から見えてきた地域の特徴 ・相談内容、傾向 ・相談があった消費者被害と対応</p>	<p>【総合相談】 R6 1,800 件(延べ数) 困難ケース 125 件(延べ数) ・生活困窮、身寄りがない、介入困難などのケース 【相談から見える地域の特色】 中央地区:経済的、社会的配慮を要する世帯が複数あり、親族とのつながりが希薄になっているケースも見られることから継続的な支援体制の構築が課題となっている。住民同士のつながりは限定的で、一部地域は民生委員や福祉推進員が協力して助け合っている。 信里地区:畑仕事や買い物など、日常的に車を必要とする住民が多く、運転ができなくなると、住み続けることが難しい。 相談内容、傾向 ・生活困窮や、身寄りのない方の緊急対応が必要な相談が増加傾向にあり、福祉政策課篠ノ井分室の高齢者担当と連携して対応している。 ・信里地区は、運動に行きたいという相談が多い。 【相談があった消費者被害と対応】 消費者被害ではないが、自己破産の相談が2件あり、弁護士と連携して対応している。</p>
<p>地域ケア会議について ・R6年度のケア会議の回数と議題</p>	<p>【地域ケア会議】 R6開催回数 14 回 ■介護予防のための個別ケア会議 8 回 ■個別ケア会議 4 回</p>

<p>・ケア会議の出席者</p> <p>・会議の中でどのような意見が出たのか</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 経済的に両親に依存している長男がいる世帯への支援について 2. ゴミ屋敷で家に入れず外で寝ている方への関わりについて 3. 頼れる親族がいない独居高齢者の対応について 4. 連絡がつかない外国人妻、離婚、借金、介護サービス費未払など、複合的な課題について <p>■ネットワーク会議 2回</p> <p>1. 篠ノ井中央地区</p> <p>議題：マップから社会資源を再確認し、地域の課題、特色を共有する</p> <p>出席者：民生委員、福祉推進員、福祉ワーカー、長野市社会福祉協議会、地域包括支援センター</p> <p>会議での意見：公民館や病院、店までの移動手段の問題、ゴミ出しの問題、雪かき問題が共通の課題としてあった。</p> <p>2. 篠ノ井信里地区</p> <p>議題：地域の資源、生活課題を共有する</p> <p>出席者：民生委員、福祉推進員、福祉ワーカー、長野市社会福祉協議会、地域包括支援センター</p> <p>会議での意見：移動手段、雪かき、空き家、人口減少、草刈り等の課題はあるが、あまり生活に即した課題は出なかった。資源についても、風景やワイナリー、米や野菜がおいしいなど、観光資源になりそうなものは出たが、日々の生活に活用できそうな資源は出なかった。</p>
<p>R6 年度地域包括支援センターの広報について</p> <p>・どのような取り組みをしているか</p> <p>実際の広報用紙またはチラシがあれば添付してください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員・児童委員協議会に参加している。 ・篠ノ井福祉まつりに相談コーナーを設ける(篠ノ井を担当する4包括で分担)